

資料No. 1

平成30年度保健事業実績について

[目 次]

— 保健事業の方針 —

第1章	生活習慣病予防等の健康づくり	1
1	生活習慣病予防の推進	1
2	がんの早期発見と予防対策の推進	3
3	生活習慣病の重症化予防	5
第2章	将来を担う次世代の健康と生涯現役社会づくり	7
1	妊産婦や乳幼児期からの健康づくりの推進(加東市母子保健計画)	7
2	こころの健康づくり	11
3	高齢者への介護予防の推進	13
4	健康を支え守るための社会環境の整備	15
第3章	栄養・運動・休養・飲酒・喫煙および口腔に関する生活習慣の改善	16
1	栄養・食生活(加東市食育推進計画)	16
2	身体活動・運動	18
3	休養	20
4	飲酒	21
5	喫煙	22
6	歯・口腔	24
第4章	健康危機における健康確保対策	26
	予防接種の実施状況	28

保健事業の方針

「健康・笑顔・まちプラン」の効果的な推進に向けて、新生児聴覚検査費助成や産後ケアサービスの実施など妊娠・出産・子育て支援の充実、好ましい生活習慣の定着及び食育などを重点的に取り組みました。また、関係機関との協働により、市民の主体的な健康づくりを支援しました。

■計画（保健事業）の目的

全ての市民が、ともに支え合いながら、希望やいきがいをもち、健やかで心豊かに暮らせるまちの実現を目指しました。

■施策方針

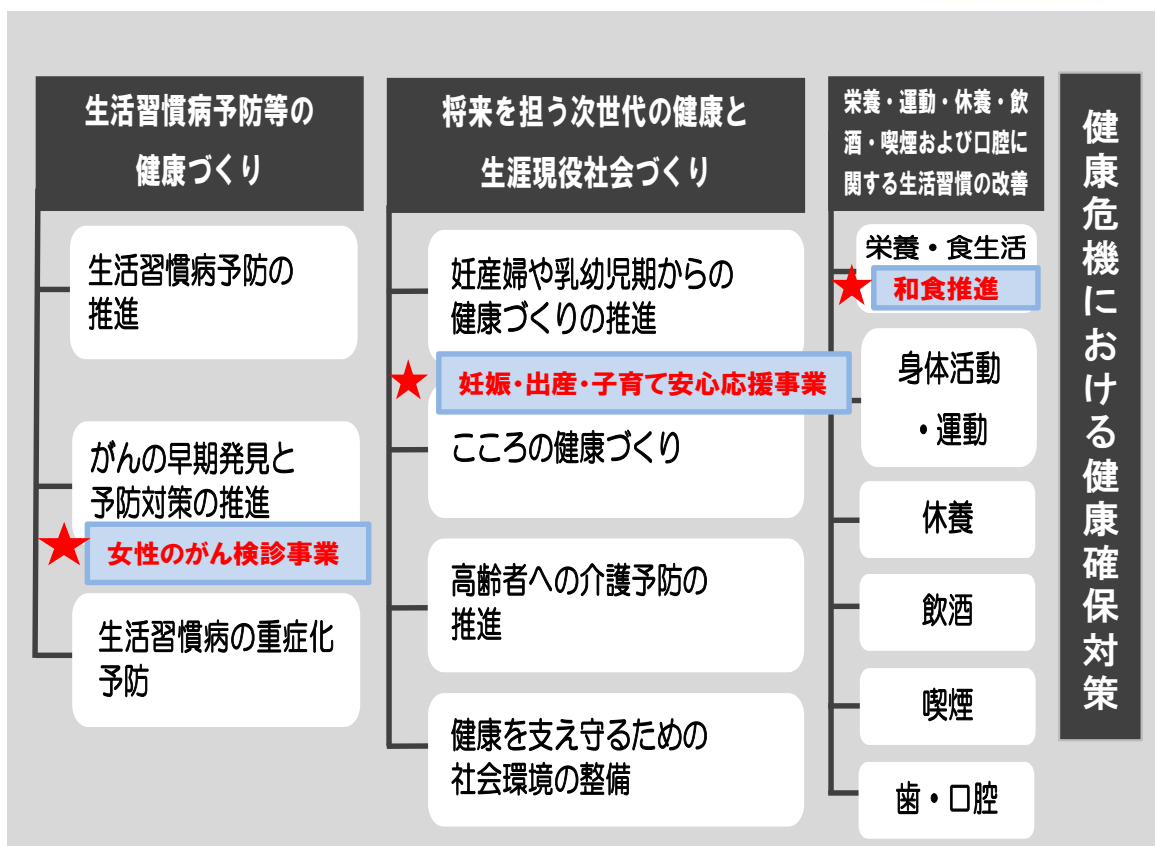
- 一人ひとりが主役、笑顔ですすめる健康づくり
- 愛情たっぷり、こころつながる健康づくり
- 健康でしあわせに暮らせる地域づくり

■キャッチフレーズ

健康づくりで笑顔を広めよう！
こころもからだも元気なまち かつう

■健康づくりの施策体系

★ 重点事業



第1章 生活習慣病予防等の健康づくり

1. 生活習慣病予防の推進

①健診の大切さを理解し、年に一度は健診を受ける

施策名		施策の方向性			
1	健診の普及啓発	・若い年代層に対する健康診査の重要性の普及・啓発			
	具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
	対象者への健診案内の郵送	健康課	実施	・健診の案内及び申込書を20歳以上の方の全世帯、国保加入の節目年齢に郵送した。	様々な機会をとらえて啓発ができたが、まちぐるみ総合健診受診者数は年々減少傾向にある。
	保健事業等でのチラシ配布	健康課	実施	・健診の必要性について、ライフステージに応じて、乳幼児健診、保健事業や成人式のあらゆる機会を通じて啓発した。	
広報紙、ケーブルテレビ	健康課	実施	・広報紙やケーブルテレビ等を通じ、生活習慣病予防の大切さを啓発した。 【今後の方向性】 啓発の継続実施		
施策名		施策の方向性			
2	受診率向上に向けた取組	・未受診者の把握と受診勧奨 ・肝炎ウイルス検診、骨粗しょう症検診他、各種検診の対象者への積極的な受診勧奨			
	具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
	まちぐるみ総合健診 特定(基本)健診	健康課	3,797人	・問診、診察、身体計測、尿検査、血圧測定、血液検査を実施し、血液検査では市独自に腎機能、貧血、血清尿酸の項目を追加した。	市独自の検査項目の追加や、託児日を設定するなど、健診を受診しやすい環境整備を図ることができたが、受診者数は年々減少傾向にある。 【今後の方向性】 継続実施
	ファミリーデー (健診時の託児)	健康課	36人	・子育て世代が受診しやすくするために、ファミリーデーとして4日間託児日を設定した。	
	肝炎ウイルス検診	健康課	233人	・40歳以上で、今までに肝炎ウイルス検診を受けていない方を対象に、B型及びC型肝炎ウイルス検査を実施した。	
	骨粗しょう症検診	健康課	285人	・40、45、50、55、60、65、70歳の女性を対象に、かかとの骨の骨密度測定を実施した。	
	肝炎ウイルス検診(個別)	健康課	253人	・40、45、50、55、60、65、70歳の方を対象に、無料受診券を配布し、指定医療機関で、個別検診を実施した。	
	特定健診(個別)	保険医療課	122人	・問診、診察、身体計測、尿検査、血圧測定、血液検査を実施し、血液検査では市独自に腎機能、貧血、血清尿酸の項目を追加した。	
人間ドック受診費用助成	保険医療課	160人	・加東市国民健康保険加入者を対象に、人間ドック受診費用の一部を助成した。		

②健診の結果により、生活習慣を改善し、必要な精密検査を受ける

施策名		施策の方向性		
生活改善に向けた指導の充実		・ハイリスク者の保健指導の徹底		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
健診当日保健指導	健康課	1,437人	・従来のメタボリックシンドロームのハイリスク者に加えて、非肥満の血圧高値者に対する指導及び栄養士による指導を実施した。	健診当日に実施することで、結果説明会等に参加されない方への指導を行うことができた。 【今後の方向性】 今後も継続して事業を実施するとともに、健診データの改善につながる効果のある指導の充実に努める。
健診結果説明会 医師講演会	健康課	相談 163人 講演会 155人	・高血圧、心筋梗塞、糖尿病、脂質異常症、肝疾患の予防について医師講演会(3回)を開催し、最新の医療情報や質疑応答を行ったことで参加者の疑問が解消できた。 ・簡単な体操の実践を行った。	
施策名		施策の方向性		
精密検査の確実な受診		・要精検者への精密検査受診勧奨		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
早期受診勧奨者への訪問、 電話勧奨	健康課	14人	・各健診項目で、早期受診勧奨の基準に該当された方には、保健師が訪問等で結果を手渡し、受診勧奨を行った。	【今後の方向性】 精密検査受診率のさらなる向上を図るため今後も啓発に努める。
精密検査受診勧奨	健康課	実施	・精密検査受診勧奨についてケーブルテレビで啓発した。 ・肝炎ウイルス検診陽性者に対しては、保健師が訪問指導を実施し、健康サポート手帳(県)による管理を指導した。	

③血圧計、体重計などを活用して、自分の健康状態をチェックし、主体的に健康づくりに取組む

施策名		施策の方向性		
市民の主体的な健康づくりに向けた啓発		・血圧計、体重計、体脂肪計、歩数計などを活用した毎日の健康チェック習慣化の啓発 ・健康手帳を活用した、自身の健康管理の推奨 ・適正体重維持の重要性を啓発 ・広報誌、ケーブルテレビ、ホームページを活用した情報提供の充実		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
サンサンチャレンジ	健康課	250人 うち 新規53人	・自宅で朝晩1日2回の体重グラフをつけることにより、体重管理の習慣を身につける運動で、10月から1月まで実施した。 ・参加者のうち、新規登録者数は増加した。 ・登録者に対してアンケート調査を実施し、チャレンジの継続意向や、健康づくりの取組状況の現状把握を行った。	サンサンチャレンジ事業により、セルフチェックの啓発を実施できた。 【今後の方向性】 今後も継続して事業を実施し、健康づくりの輪を広げていく。
サンサンカフェ	健康課	6回 66人	・参加者同士が健康づくりについて学び合い、健康づくりの輪を広げるために、交流を図った。 ・体チェック(体年齢・体脂肪測定)を取り入れたり、運動の実践を行った。	
健康手帳の交付	健康課	529人	・保健事業時に交付し、活用について説明した。 ・まちぐるみ総合健診結果説明会、地域健康サロン、女性のがん検診受診者等に配付した。	

2. がんの早期発見と予防対策の推進

①がんの危険因子や症状を正しく理解する

施策名		施策の方向性		
知識の普及		<ul style="list-style-type: none"> 喫煙、過剰飲酒、低身体活動、肥満・やせ、野菜・果物不足、塩分・塩蔵食品の過剰摂取、がんに関するウイルスや細菌への感染など、がんの発症リスクを高める要因についての知識の普及 注意すべき自覚症状について啓発し、自覚症状がある場合は早期受診を勧奨 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
保健事業でのチラシ配布	健康課	実施	<ul style="list-style-type: none"> 保健事業で大腸がんについてのパンフレットを配布し、啓発した。 まちぐるみ総合健診では、特定(基本)健診と合わせて受診に対する啓発を実施した。 	【今後の方向性】 引き続き、啓発に努める。
各種団体への啓発	健康課	実施	<ul style="list-style-type: none"> 後期高齢者医療保険加入者・国保加入の節目年齢の方にチラシを郵送し、受診勧奨をした。 	
広報、ケーブルテレビ	健康課	実施		

②がんにつながる生活習慣を改善し、がんを予防する

施策名		施策の方向性		
発症予防		生活習慣の改善など、がんの予防を目的とした相談支援の実施		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
健康展・ロビー展示	健康課	実施	<ul style="list-style-type: none"> 乳がんについてパネル展示をした。 がん予防、がん検診啓発のクイズを実施した。 	【今後の方向性】 今後も、健診の機会や保健事業、イベントを通じて啓発に努める。
まちぐるみ総合健診時保健指導	健康課	実施	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣改善指導時に、がんの発症リスクについて、個別指導を実施した。 	

③がん検診の大切さを理解し、年に一度は検診を受け、早期発見に努める

施策名		施策の方向性		
がん検診の受診促進		<ul style="list-style-type: none"> がん検診の周知や体制の充実による受診率の向上に向けた取組みの強化 がん検診受診後の事後指導の徹底 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
胃がん検診	健康課	985人	<ul style="list-style-type: none"> まちぐるみ総合健診で胃透視を実施した。 	まちぐるみ総合健診総受診者数の減少傾向に伴い、がん検診受診者数も年々減少傾向にある。 【今後の方向性】 引き続き、啓発に努める。
胃の健康度チェック(ABC検診)	健康課	470人	<ul style="list-style-type: none"> 胃の委縮度とピロリ菌の感染の有無を調べる血液検査を実施した。(オプション検査) 	
胸部検診(結核・肺がん・アスベスト)	健康課	3,440人	<ul style="list-style-type: none"> 胸部レントゲン撮影を実施した。 アスベスト健診、喀痰検査を実施した。 	
大腸がん検診	健康課	2,952人 うち節目 593人	<ul style="list-style-type: none"> 便潜血反応検査(2日便)を実施した。 特定年齢を対象に無料で実施した。 	
前立腺がん検診	健康課	910人	<ul style="list-style-type: none"> 男性(特に50歳以上)を対象に、血液検査による血液中のPSA測定を実施した。 	

④女性特有のがんについて正しく理解し、乳がん自己検診や検診の受診により、早期発見に努める

施策名		施策の方向性		
女性のがん検診の受診促進		<ul style="list-style-type: none"> ・子宮頸がん、乳がんについての知識の普及・啓発 ・乳がん自己検診方法の知識の普及 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
子宮頸がん検診(集団)	健康課	449人 うちクーポン 1人	・20歳以上の偶数年齢を対象に実施した。	<p>子宮頸がん集団検診の受診者数は449人で、前年度(447人)より受診者は増加したが目標には及ばなかった。 (H30年度重点目標:子宮頸がん検診受診者数455人)</p> <p>健診機会を通じて、知識の普及啓発ができた。検診受診率のさらなる向上が必要。 国の指針に沿って、令和元年度から乳がん検診の検査項目がマンモグラフィ検査のみ変更するため、自己触診法の啓発が必要。</p> <p>【今後の方向性】 検診での啓発を継続するとともに、市民全体に幅広い啓発を実施していく。 若い世代の方の子宮頸がん検診の受診率向上のため、検診日に託児を実施する。 自己触診法について、検診受診者に個別指導を実施。また、イベント時に啓発に努める。</p>
子宮頸がん検診(個別)	健康課	166人	・個別検診は、加東市民病院で実施した。	
子宮頸がん検診(クーポン)	健康課	22人	・協力医療機関で特定年齢の方に実施した。	
乳がん検診(集団)	健康課	607人 うちクーポン 53人	・40歳以上の偶数年齢を対象に実施した。	
乳がん検診(個別)	健康課	112人	・個別検診は、加東市民病院で実施した。	
乳がん検診(クーポン)	健康課	44人	・協力医療機関で特定年齢の方に実施した。	
乳がん自己触診法の普及	健康課	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・健康展で乳がん啓発コーナーを設置した。 ・検診会場で自己触診法を指導した。 	

⑤精密検査が必要と判定された場合は、早期に精密検査を受ける

施策名		施策の方向性		
精密検査の確実な受診		<ul style="list-style-type: none"> ・要精検者へ早期の精密検査受診の勧奨 ・精密検査未受診者に対する文書、電話、訪問等を通じた受診の勧奨 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
精密検査受診勧奨	健康課	実施	・精密検査受診勧奨についてケーブルテレビで啓発した。	<p>【今後の方向性】 要精検者が確実に受診につながるよう、精検未受診者への受診勧奨(文書、電話、面接等)を継続して実施する。</p>
要精密者訪問・面接・電話	健康課	実施	・がん検診要精密者に対して、電話や訪問等で受診勧奨を行った。	
要精密未受診者勧奨通知	健康課	実施	・各種がん検診の要精密未受診者に対して、郵送で受診勧奨を行った。	

3. 生活習慣病の重症化予防

①循環器疾患、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、糖尿病、CKD（慢性腎臓病）等について正しく理解する

施策名			施策の方向性	
発症予防			<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関、関係機関、団体と連携し、危険因子(高血圧・脂質異常・高血糖・喫煙)の管理についての正しい知識の普及・啓発 ・特定健診、特定保健指導の受診率向上に向けた取組みの強化 ・COPD(慢性閉塞性肺疾患)に対する知識の普及 ・CKD(慢性腎臓病)発症予防を目的とした、生活習慣改善のための相談支援の実施 	
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
まちぐるみ総合健診時保健指導	健康課	1,437人	<ul style="list-style-type: none"> ・特定保健指導は、特定(基本)健診受診者で、国民健康保険被保険者を対象に実施した。 ・腹囲、BMIを基準に追加リスクにより、動機づけ支援(初回面接と評価)、積極的支援(初回面接、継続的支援、評価)対象者に分けて、生活習慣改善指導を行った。 ・特定保健指導の対象者に結果説明会への来所を電話勧奨した。(113人中34人来所) 	<p>【今後の方向性】 重症化を予防するため、引き続き、健診結果を活用した指導や、イベント機会の啓発を継続して実施していく。</p>
健診結果説明会	健康課	163人		
特定保健指導	保険医療課	160人		
健康展 慢性腎臓病啓発コーナー	健康課	実施		
肺年齢測定	健康課	133人		
COPD啓発	健康課	実施		

②ライフステージに応じた生活習慣病の予防や早期受診、治療の継続を行うことで、重症化を防ぐ

施策名			施策の方向性	
重症化の予防			<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医を持つことの重要性や適正な受診(医療中断防止)についての普及・啓発 ・まちぐるみ総合健診の要精密検査者、要医療者に対する家庭訪問、電話等による受診勧奨 ・かかりつけ医との連携による個別保健栄養指導の実施 ・特定保健指導の支援レベルに応じた、具体的な情報提供や行動変容につながる継続的な支援の実施 ・セルフケアの推進と個別やグループでの支援 ・医療機関受診に支援が必要な方の把握や支援 	
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
慢性腎臓病ハイリスク者訪問指導	健康課	81人	<ul style="list-style-type: none"> ・新規の人工透析者の減少を目指して、まちぐるみ総合健診受診者のうち、慢性腎臓病のハイリスク者を対象に、訪問等による保健・栄養指導を行った。 ・まちぐるみ総合健診会場で、血圧高値者を対象に、血圧アドバイスを実施した。(196人) ・乳がん(607人)及び子宮頸がん(449人)検診会場で、血圧測定を実施し、血圧高値者に血圧アドバイスを実施した。 ・まちぐるみ総合健診会場で、血糖高値者を対象に個別相談を実施した。 	<p>【今後の方向性】 健診機会を生かした指導や健診結果に基づく指導を継続して実施していく。</p>
血圧高値者個別指導	健康課	1,252人		
血糖高値者個別指導	健康課	72人		

施策名		施策の方向性		
地域保健体制の推進		<ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉事務所、医師会などの関係機関が開催する会議や地域医療連絡会等を通じたネットワークの推進 ・救急医療体制の広報・啓発 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
地域医療連絡会	健康課	実施	・小野市・加東市医師会、行政関係課との連絡調整会を年1回、2月に実施した。	【今後の方向性】 今後も継続して実施していく。
健康づくり推進協議会	健康課	2回	・保健医療関係者、関係行政機関代表、地区組織団体代表、教育委員会関係、事業所等代表者、学識経験者で健康づくりに関する協議を行った。	
平日・時間外救急・休日診療	健康課	実施	1. 休日診療状況 全受診者数 2,603人 (内訳)ア. 小野市・加東市内受診者数 2,149人 イ. その他の地域からの受診者数 454人 2. 内科系週日時間外診療状況 全受診者数 764人 (内訳)ア. 小野市・加東市の受診者数 683人 イ. その他の地域からの受診者数 81人	

第2章 将来を担う次世代の健康と生涯現役社会づくり

1. 妊産婦や乳幼児期からの健康づくりの推進（加東市母子保健計画）

①妊産婦が安心して自分の望む妊娠・出産期を過ごすことができる

施策名		施策の方向性		
1	妊産婦や父親への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠・出産・育児期における母子保健対策の充実 ・妊娠中から育児に関する正しい知識・技術を啓発する準備支援 ・父親の子育て力の向上を図り、両親による子育て意識の醸成 ・各事業間や関連機関の連携体制の強化による、切れ目のない支援体制の構築 		
	具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容
	母子・父子健康手帳交付 祖父母手帳交付	健康課	母子健康手帳341人 祖父母手帳330人	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師による面接を来所者全てに実施し、一人ひとりに合った妊娠中のプランを立案した。 ・祖父母へ育児情報を提供し協力を促進するため、祖父母手帳を交付した。
妊婦健康診査費助成事業	健康課	457人	・妊娠期をより健やかに過ごしていただくため、妊婦健康診査費用を上限10万円として助成した。	
2	特定妊婦不妊治療費助成事業 不育症治療費助成	健康課	35人 不育症0人	<ul style="list-style-type: none"> ・特定不妊治療を受ける夫婦の経済的負担を軽減するため、治療に要する費用を助成した。 ・不育症の検査・治療にかかる費用の助成を行い、周知に努めた。
	新生児聴覚検査費助成	健康課	出生数338人 検査実施338人	・生まれつき聴覚に障害のある乳児を早期に見出し、適切な治療につなげるため新生児聴覚検査費用を全額助成した。
	パパママクラス	健康課	5回 56組 111人	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦体験を通して父親に妊婦の大変さを感じてもらい、妊娠中や産後の家事、育児参加へのきっかけとなるように働きかけた。 ・個々の不安にも丁寧に対応し、妊婦の不安軽減に努めた。
	妊娠・出産・子育て安心応援事業	健康課	妊婦訪問16人 電話173人 面接552人	・妊娠・出産・子育て安心パートナーを配置し、妊娠期から出産・子育て期へと、切れ目のない支援になるよう努めた。
	母子訪問(新生児・乳幼児訪問)	健康課	1075人	・児の成長発達の確認、母親の体調確認や育児支援を行った。
	母乳相談	健康課	実人数67人 延人数88人	・助産師による母乳相談を実施し、授乳や乳児の体重増加などの個別相談等支援を行った。
	産後ケア費用助成	健康課	宿泊型実人数9人 延日数44 デイサービス型実人数0 乳房ケア実人数58人 延回数101	<ul style="list-style-type: none"> ・育児不安が強く、支援を必要とする方、家族等から産後に十分な援助が受けられない方に対し、産後ケア(宿泊型)費用の助成を実施し、産婦の休息を図ったり、育児技術の習得が行えるよう支援した。 ・授乳等で不安を感じている方に対し、医療機関等で受ける乳房ケアサービスの費用を助成した。

H30年はきめ細やかな個別支援を行ってきたが、重点目標のゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合が87%であり、目標を達成できなかった。
(H30年度重点目標: ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合90%)
現状として、支援者不在や経済的な問題、未婚、望まない妊娠、外国人妊婦など、妊娠期から継続した支援が必要な妊産婦が増加している。

【今後の方向性】
引き続き、一人一人に応じたきめ細やかな支援を実施していく。特に関係機関との連携強化を行い、重層的な支援が望まれる。また、産婦健康診査費用の助成により、安心して健診を受けられる体制づくりを行っていく。

②子どもの健やかな成長発達や望ましい生活習慣を育む

施策名		施策の方向性		
子どもの健やかな成長への支援		<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦の喫煙、飲酒などのリスクや子どもの受動喫煙に関する十分な情報提供および指導 ・子どもの成長発達の確認を行うとともに、相談の場の確保や保護者の育児能力向上への支援 ・「早寝 早起き 朝ごはん」運動の普及による、子どもが健やかに成長できる環境づくりの推進 ・乳幼児健診、教室時や保育所などを通じた、家庭での正しい食習慣定着への指導 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
親子でほっとらんど	子ども教育課 児童館	乳児 44人	・乳児とその保護者を対象に手遊びやふれあい遊び、絵本の読み聞かせなどを行い交流を深めた。	健診未受診者への電話連絡や訪問等による受診勧奨・状況把握を行っているが、連絡がとりづらく、くり返しのアプローチや時間外での対応など時間を要する。 【今後の方向性】 引き続き、受診率の向上に向けて健診、教室、相談の啓発、勧奨を行っていく。 健診未受診者については、本人確認含め、受診勧奨を行う。
乳幼児健診(4か月健診)	健康課	352人 * 受診率 98.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・4か月児、1歳6か月児及び3歳児健診を実施し、疾病や発達の遅れ等の早期発見及び健やかな成長に向けて、育児の支援を行った。 ・未受診者に対しては、電話や訪問で受診勧奨を行い、対象者の全数把握に努めた。 	
乳幼児健診(1歳6か月児健診)	健康課	350人 * 受診率 99.7%		
乳幼児健診(3歳児健診)	健康課	350人 * 受診率 98.9%		
離乳食もぐもぐ教室	健康課	109人	・月に1回、4～6か月児の保護者を対象に離乳食の作り方や進め方の講話と実習を実施した。	
10か月児相談	健康課	329人 * 参加率 97.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・児の動きが活発になる時期であり、運動発達の確認を行ったり、離乳食後期の試食や指導を行った。 ・母子保健推進員によるミニ講話や子どもの視野体験などを実施し、事故予防の啓発に努めた。 	
2歳児育児教室	健康課	359人 * 参加率 90.2%	・食べられる物の種類が増え、むし歯になりやすいこの時期に、食事やおやつの摂り方・歯科衛生士によるブラッシング指導を行った。	
子育て何でも相談	健康課	697人	・就学前までの子どもの保護者を対象に、身体測定、保健師や栄養士が育児・食事の相談を行いました。年に3回は歯科衛生士による歯科相談を実施し、う歯予防の啓発に努めた。	
こどもさんさんチャレンジ (早寝早起き朝ごはん)	健康課	年長児307人 回収率 84.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所、幼稚園及び認定こども園との連携を図り、子どもが健やかに育つ環境づくりとして、年長児を対象に「早寝早起き朝ごはん運動」を実施した。 ・3週間の取組状況や親の感想などの記録表(チャレンジシート)を配付、回収した。 ・市内の小中学校へも波及し、チャレンジした。 	

施策名		施策の方向性		
支援が必要な子どもや育てにくさを感じる親への寄り添う支援		<ul style="list-style-type: none"> ・先天性疾患、未熟児、発達面など特に支援が必要とされる子どもとその家庭に対する相談や訪問 ・医療機関や子育て関係機関等との情報共有、連携による支援 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
未熟児訪問指導	健康課	27人	・児の成長発達の確認、母親への体調確認や育児支援を行った。	【今後の方向性】 発達サポートセンターへ適切な時期につないだり、その後の連絡調整を行うことで、途切れない支援を行う。
養育支援ネットによる支援	健康課	50人	・産科医療機関等との連携により、未熟児等ハイリスク児や養育支援を必要とする家庭への支援を行った。	
保育園等巡回相談	発達サポートセンター	(定期)16回 16人 (個別)8回 29人	・保育所等から支援が必要な児の関わり方について相談があったケースに対し、北はりま特別支援学校コーディネーターと共に訪問し、児の観察及び助言を行い、必要な場合は発達相談につなげた。	
子どもの発達・何でも相談	発達サポートセンター	延人数 312人	・言語・運動発達をはじめ、『落ち着きがない』『学習についていけない』『友達とのトラブルが多い』などの相談に対し、専門家による相談・診察を実施した。	
ナーサリールーム	発達サポートセンター	実人数 14人 延人数 214人	・早期に小集団に入ることが望ましい児を対象に、療育教室を実施した。月2回、子どもの心身の発達を促せるよう、からだを使った遊びや手先を使う工作等を行った。	
乳幼児電話相談	健康課	1085人	・育児や子どもの成長・発達や、健診・予防接種のこと等について電話で相談に応じた。	
5歳児発達相談	健康課	332人 うち新規相談7人 回収率 100%	・5歳になる子どもの保護者を対象に、保育園、認定こども園及び幼稚園を通じアンケートを実施し、集団生活や対人関係における課題等を把握するとともに、子育ての困難感や悩みについて支援した。	

③保護者が子どもの事故防止、適正な医療受診を行う

施策名		施策の方向性		
小児救急医療体制の啓発		<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診時におけるリーフレットの配付や育児指導、ポスター掲示など、さまざまな機会を通じた誤飲や転落等の乳幼児の事故防止に関する啓発 ・小児救急(夜間・休日)の上手なかかり方の啓発 ・小児救急医療電話相談センター(兵庫県・北播磨圏域)の利用についての普及・啓発 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
乳幼児健診時の啓発	健康課	実施	各種健診・相談時に事故防止のリーフレットを配付し、啓発に努めた。	【今後の方向性】 継続実施する。
新生児訪問時の啓発	健康課	実施	新生児訪問時に事故防止のリーフレットを配付するとともに小児救急医療電話相談センターを啓発した。	

④思春期の子どもが健やかな生活習慣を身につけ、次世代の親へと成長する

施策名		施策の方向性		
思春期保健の充実		<ul style="list-style-type: none"> ・望まない妊娠の予防や性感染症等の正しい知識の普及 ・喫煙、飲酒、過激なダイエットのリスクなどに関する正しい知識の普及 ・スクールカウンセラーの配置などによる子どものこころの問題についての支援 ・赤ちゃん人形や、妊婦体験グッズを利用した学習機会の充実 ・中学校の総合的な学習の時間や児童館等で乳幼児とふれあう機会を設ける 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
高校への授業	健康課	実施	・高校の授業の中で妊婦体験や、赤ちゃん人形の抱っこ等を実施した。	小中学校では、専門家による性教育学習会等を発達段階に合わせて実施するとともに、学校全体を通して健全な異性観が持てるよう推進していく。 【今後の方向性】 子どもだけでなく、保護者の支援の重要性は高まっているため、今後も継続して実施する。
健全な性教育の普及	学校教育課	実施	・主として、保健の授業や学級指導の時間等において、性教育の学習を行っています。毎年、保健担当者会で性教育のカリキュラムの見直し、児童生徒の実態に応じた学習を行った。	
スクールカウンセラーの配置	学校教育課	実施	・児童生徒の心理に関する支援のため、スクールカウンセラー5名が、それぞれ年間35日、市内全小中学校に計画的に配置され、カウンセリング等を行った。	

⑤子どもの健やかな成長を地域全体で見守り育む

施策名		施策の方向性		
地域全体による子育て支援		<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体で子どもの健やかな成長を見守り・支える、孤立させない地域づくり ・地域のさまざまな資源や地域の子育てに関する情報の啓発 ・育児の負担感を感じる親や、子どもの発するさまざまなサインのキャッチとそれに伴う支援へのコーディネート ・母子保健推進員活動の充実 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
母子保健連絡会	健康課	8月	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の発育発達に関する問題を把握、検討し、母子保健事業を円滑かつ効果的に推進するために、教育委員会、保育園、幼稚園、その他母子保健関係機関職員と連絡会を開催した。 ・乳幼児の事故予防対策について研修とグループワークを行った。 	<p>切れ目のない支援を行うためには、様々な関係機関等との連携が重要である。</p> <p>【今後の方向性】 継続実施する。</p>
母子保健推進員連絡会	健康課	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健推進員は、親子の健康保持増進等のため活動を行いました。(14名) ・活動の連絡調整のため、会議を開催した。 	
母子保健事業従事者連絡会	健康課	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健事業従事者とともに、事業運営の向上を目指し、実績報告や意見交換を行ったり、新しい知識や必要なスキルの習得を目的に開催した。 	
こども発達支援連絡会	発達サポートセンター	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児から成人までそれぞれのライフステージに応じた適切で一貫した支援を実施することを目的に開催した。 	
サポートファイル作成	発達サポートセンター	418人	<ul style="list-style-type: none"> ・就園・就学・進学を控えた個別支援の継続が必要な児や生徒を対象に、これまでの様子や支援方法をまとめたものを作成し、学校の担任等、次に関わる関係者に引き継いだ。 	
健康展	健康課	484人	<ul style="list-style-type: none"> ・元気応援隊が従事し、「手洗いチェック」を行った。 	
主任児童委員会懇談会	福祉総務課	1地域 1回	<ul style="list-style-type: none"> ・社、滝野、東条の地域ごとに、乳幼児健診未受診者など、地域でのつながりや見守りが必要な家庭について、情報共有を行った。 	

⑥虐待リスクの高い親子が早期に発見され、関係機関の連携支援により、虐待の未然防止を図ることができる

施策名		施策の方向性		
虐待予防対策		<ul style="list-style-type: none"> ・母子健康手帳交付時の面接や両親学級(パパママクラス)、妊婦訪問などの妊娠期からの虐待予防対策の充実 ・医療機関との連携のもと、養育支援ネットを通じた育児不安や産後うつ等、虐待のリスクに対する早期把握 ・早期支援の徹底 ・出産後の赤ちゃん訪問の全数実施 ・虐待防止の意識啓発 ・健診時や保育所、幼稚園等における虐待やその予備軍の早期発見 ・虐待リスクのある保護者の不安軽減や育児能力向上への支援 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
子育て支援プラン検討会	健康課	12回 検討数 153人	<ul style="list-style-type: none"> ・出産前から支援を行うことが特に必要と認められる妊婦や、養育に問題のある家庭に対し、福祉総務課と今後の支援方法について検討や、情報交換を行った。 	<p>【今後の方向性】 引き続き実施する。様々な問題が重複しているケースには関係機関との連携強化をしていく必要がある。</p>
母子訪問(乳児家庭全戸訪問) 【再掲】	健康課	329人	<ul style="list-style-type: none"> ・生後4か月を迎えるまでの乳児のいる家庭を対象に訪問を行いました。長期里帰りや出産後間もなく転出など訪問ができないケースについても状況を確認した。 	
要保護児童対策地域協議会	福祉総務課	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待、非行及び不登校などの要保護児童に関する情報交換を行い、要保護児童やその保護者に対する支援内容を協議した。 	

2. こころの健康づくり

①こころの健康づくりやうつ病予防について理解し、セルフコントロール、ストレス対処法を身につける

施策名		施策の方向性		
こころの健康づくりの啓発		<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙やケーブルテレビ、インターネットを活用した、こころの健康問題の重要性等の情報提供 ・各地でのうつ、自殺の予防、上手なストレスへの対処法などをテーマにした、こころの健康教育の実施 ・こころの不調への気づきやそれに対する適切な対応のためのストレスチェックの普及 ・うつ病の認識や不調を感じた際の医療機関への受診など、ライフステージに応じたこころの健康に対する知識の普及・啓発 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
広報・ケーブルテレビ	健康課	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙やケーブルテレビ等を通じ、自殺の減少を目的に、「いのち」を大切にすることをこころの健康づくりの大切さを啓発した。 ・自殺対策予防週間や自殺対策強化月間に啓発を行った。 	【今後の方向性】 適切な相談窓口につながるようチラシの作成、配布を継続していく。
こころの体温計	健康課	こころの体温計 総アクセス数 9,584	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ上にメンタルヘルスチェックシステムを設置した。 ・こころの健康ホットダイヤルを掲載したチラシを作成し配布した。 ・若い世代がアクセスし、相談窓口を知ることができるよう、母子保健事業や保育園等にも配布した。 ・各種団体や各種講演会開催時に啓発用チラシ等を配布した。 	
こころの相談窓口の啓発	健康課	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・まちぐるみ総合健診申込書にこころの相談窓口を掲載し、20才以上の全世帯に配布した。 	

②こころの健康についての悩みを気軽に相談し、早期に支援を受けることができる

施策名		施策の方向性		
相談体制に充実		<ul style="list-style-type: none"> ・思春期、妊産婦や子育て世代の相談支援 ・児童・生徒に対する学校の相談体制の充実 ・市民が利用できる市内外のこころの健康に関する相談窓口の周知 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
妊産婦・新生児訪問産後うつ質問票	健康課	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・うつ病によく見られる症状を、質問にしたもので、保健師が訪問時にうつ傾向にある産婦をスクリーニングし、支援した。 	【今後の方向性】 庁内会議で、悩みのある人に気づき、声をかけ、適切な支援につなげるため、今後も研修、相談体制を継続実施し、相談体制の充実に努める。
こころの健康ホットダイヤル	健康課	53人	<ul style="list-style-type: none"> ・こころの健康について、悩みや不安のある人からの電話相談を行った。 ・希死念慮が確認できた場合には、加東健康福祉事務所との連携を図り、検討会を開催するなど、技術支援を受けた。 	
産後ママのリフレッシュ講座と相談会	健康課	2回 講座53人 相談27人	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師による「メンタル面でのセルフケア」についての講話とグループワーク、ハンドマッサージ、相談会を行った。 ・生活問題、就労問題、子育て支援等についての総合相談会を同時に開催することで、早期に支援者につながる機会となった。 	
こころの健康づくりネットワーク会議	健康課	3回 58人 ①23人 (8/8) ②17人 (12/14) ③18人 (1/15)	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺対策を効果的に実施、推進するための庁内連携の組織による会議を実施した。 ・「自殺予防、傾聴、自身のメンタルヘルスについて」「こころのSOSを見逃さないために」と題して、庁内会議委員を中心に研修を行った。 	

③働く世代が悩みを気軽に家庭や職場、地域に相談し、うつや自殺を予防する

施策名		施策の方向性		
うつ・自殺予防対策		<ul style="list-style-type: none"> 働き盛りの男性に対する、職場や民生児童委員などの身近な地域の相談体制の充実による、こころの健康に関する悩みの早期発見・支援 孤立化を防ぐために、職場や身近な地域で日頃から気軽に相談する習慣や、支え合える仲間づくりの大切さの周知 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
1	うつ、自殺未遂者への相談支援	健康課	実施	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関の主催するケース検討会に参画し、連携して支援を行った。 加東健康福祉事務所、医療機関との連絡調整を行った。
	ゲートキーパー研修 (こころの健康づくり企業研修)	健康課	45人	<ul style="list-style-type: none"> 企業向けゲートキーパー研修(企業人権教育協議会研修会)を行った。 内容は、保健師による講話「市の自殺の現状と課題」、実技「心と体 スッキリヨガ」
				<p>【今後の方向性】</p> <p>今後も働く世代の自殺対策として、人権協働課との連携により、企業向けの研修を実施していく。</p>

④こころの健康についての悩みの相談やうつや自殺予防などに対して、地域での適切かつ継続的な支援を受けることができる

施策名		施策の方向性		
地域のネットワークの構築		<ul style="list-style-type: none"> 市民が気軽にこころの悩みが相談できるための、市や健康福祉事務所などにおける人材(保健・医療・福祉・事業所等関係者)の資質向上 地域や学校、職場、行政における「周囲の人の悩みに気づき、こころの健康を支える人材(ゲートキーパー)」の養成研修の実施 健康福祉事務所や医療・福祉機関、事業所など関係機関との連携強化による、自殺予防対策の充実 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
1	ゲートキーパー研修 (こころの健康づくりネットワーク研修)	健康課	95人	<ul style="list-style-type: none"> 民生児童委員、婦人会、いずみ会等各種団体リーダー、市民、庁内会議委員を対象にゲートキーパー研修を行った。 テーマ『男もつらいよ！ からだとこころのSOS～寄りそう心、あなたが地域でできること～』 うつの方への対応の仕方や予防方法について学ぶことができた。
	ゲートキーパー研修 (こころの健康づくり企業研修) 【再掲】	健康課	45人	<ul style="list-style-type: none"> 企業向けゲートキーパー研修(企業人権教育協議会研修会)を行った。 内容は、保健師による講話「市の自殺の現状と課題」、実技「心と体 スッキリヨガ」
	こころの健康づくりネットワーク会議	健康課	3回	<ul style="list-style-type: none"> 庁内連携会議を年3回開催し、加東市自殺対策計画策定のための事業の整理等を行った。
				<p>【今後の方向性】</p> <p>市民向け、企業向け研修を継続して実施し、ゲートキーパーの養成に努める。</p> <p>庁内会議の開催により、自殺対策に関する情報の共有とネットワークの強化に努める。</p> <p>庁内のネットワークのさらなる強化のため、市長を本部長とし、庁内各部長で構成する「加東市自殺対策推進本部」を設置し、自殺対策の総合的な推進を図る。</p>

3. 高齢者への介護予防の推進

①高齢者がいきがいを持って就労や趣味活動、ボランティア活動ができる

施策名		施策の方向性		
1	高齢者のいきがいがづくりの促進	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センターや社会福祉協議会による、就労やボランティア活動への相談支援やコーディネート ・趣味や健康づくりに気軽に参加できるための地域活動支援 ・いきがいや仲間づくりを支援するため、生涯学習・スポーツ活動の活性化や交流機会の充実 		
	具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容
	高齢者大学	生涯学習課	実施	・高齢者大学の講座にて、フレイル、低栄養予防、熱中症対策について啓発を行った。
	まちぐるみ総合健診	保険医療課	実施	・後期高齢者医療保険加入者については、無料で実施した。
				課題、今後の方向性等 【今後の方向性】 今後も継続して実施していく。

②自ら要介護状態となることを予防し、健康の維持・増進に取り組む

施策名		施策の方向性		
1	介護予防の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の改善などの健康に関する相談および必要な栄養指導や保健指導の実施 ・口腔機能の向上を目的とした、歯周疾患検診や介護予防事業などの実施 ・要支援認定の原因として多い、下肢や膝・腰などの運動機能の低下予防についての普及・啓発 		
	具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容
	歯周病検診	健康課	実施	・まちぐるみ総合健診会場において、検診を実施した。
	地域健康サロン	健康課	8回 102人 シニア 6回 127人	・地域で高齢者がいきいきと過ごせるために、介護予防、健康づくりの講話及び健康チェック、調理実習等を行った。
介護予防サポーター	高齢介護課	5回 115人	・介護予防サポーター養成講座を開催し、活動の場の提供を行った。	
				課題、今後の方向性等 【今後の方向性】 今後も継続して実施していく。

③地域のあらゆる人々が、高齢者を支え、介護予防を実践する

施策名		施策の方向性		
地域の介護予防の促進		<ul style="list-style-type: none"> ・閉じこもりや孤立化予防のための、地域交流や声かけ、見守りができる地域づくりの推進 ・介護予防事業を地域において展開する自主的なグループづくりへの支援 ・介護予防の輪を広げるための、いきいきサロンやシニアクラブ活動など地域活動への参加促進 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
かとうまちかど体操教室	高齢介護課	実施会場 60か所 うち新規 5か所	・かとうまちかど体操教室の未実施地区に対する普及啓発及び実施地区の継続運営支援を行った。	【今後の方向性】 かとうまちかど体操教室：継続実施のためのサポート。 いきいきサロンについては、小地域福祉活動の推進により実施地区を増やす。 社会参加が介護予防につながるため、シニアクラブ連合会と連携・協働し啓発や活動のきっかけづくりを推進する。
いきいきサロン、シニアクラブ活動	社会福祉協議会	実施	・いきいきサロンやシニアクラブ活動を、関係機関との連携のもとに支援した。	

④認知症について理解を深め、認知症の人や家族が安心して暮らすことができる

施策名		施策の方向性		
認知症の人や家族への支援		<ul style="list-style-type: none"> ・認知症についての正しい知識の啓発、認知症の人と家族を理解し支える認知症サポーターの育成 ・地域包括支援センターや医療機関等関係機関とのネットワークによる相談窓口等支援体制の充実 ・高齢者の入院(所)・退院(所)・在宅を通じた切れ目ない保健福祉医療サービスを受けることができる、地域包括ケアの推進 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
認知症タッチパネルチェック	高齢介護課	819人	・まちぐるみ総合健診会場等において、物忘れ相談プログラムを実施し、軽度認知障害の早期発見、早期支援に取り組んだ。	認知症の早期発見・早期受診の啓発に取り組んでいるが、認知症状が進んでからの相談が多い。 【今後の方向性】 認知症の早期発見・早期支援の取り組みを引き続き行うとともに、認知症相談センターなどとのネットワークを活用していく。
地域ケア会議	高齢介護課	実施	・地域ケア会議での検討を通じて、個別支援の取組みを重ね、地域の実情に応じたネットワークの構築を進めた。	
認知症サポーターの養成	高齢介護課	462人	・認知症になっても住み慣れた地域で安心して自分らしい生活が送れるように、見守り、支える人を増やした。 (認知症サポーター総数5,075人H31.4. 現在)	

4. 健康を支え守るための社会環境の整備

①一人ひとりの社会参加を通じて、地域の支え合い・つながりを深め、企業、民間団体等と連携のもと、健康づくりに主体的に取り組む

施策名		施策の方向性		
地域のつながりの強化		・健やかな子どもの成長発達や高齢者のいきがいにつながる活動、まちづくりや防災に関連した活動、自然や環境を守るための活動などを通じた地域のつながりの強化、こころの健康問題等への地域ぐるみの支援		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
健康づくりと介護予防セミナー	健康課 高齢介護課	320人	・「健康づくり」や「介護予防」を楽しく学び、健康でしあわせに暮らせるまちづくりを目指したセミナーを、高齢介護課と合同で実施した。	【今後の方向性】 より多くの自主防災組織が主体的に防災訓練を実施できるように支援等を行っていく。 小地域福祉活動については、未実施地区の状況を把握し、市内全地区で実施されるよう支援する。 広報誌などを活用し、活動を積極的にPRする。 サロン活動は、「支援する人・支援される人」の区別がない活動であり、参加者一人ひとりが自分の役割を見つけ、また、役割を見つけて支援をすることで、生きがいづくりにつなげる。
自主防災組織の育成	防災課	15団体 590人	・自主防災組織が主体的にAEDの使用訓練や救護訓練等を行うことで地域住民の生命や健康を守ることが出来る組織としても育成を行うことができた。	
小地域福祉活動	社会福祉協議会	実施地区 77/98	・社会福祉協議会では、各地区で地域福祉活動を推進していただくための相談や活動支援をした。各地区でのふれあいサロン、カフェや地域住民の交流行事などの開催を通じて、住民同士のつながりや助け合いを深めた。	
ゲートキーパー養成【再掲】	健康課	実施	・こころの健康づくりネットワーク研修等で、悩みを抱えた人に気づき、見守り、適切につなげることができる人材を育成した。	
健康展【再掲】	健康課	112人	・骨量測定を行い、骨粗しょう症予防の指導を行った。	
		99人	・血圧測定と健康相談を行った。	
		61人	・ハンドトリートメントと併せて、乳がんの啓発を行った。	
		5人	・スモーカーライザーで一酸化炭素濃度を測定し、禁煙指導を行った。	
		77人	・肺年齢を測定し、COPDの啓発を行った。	
施策名	施策の方向性			
健康づくりを目的とした主体的な活動への支援	・ボランティア活動や同好会、サークルなどの地域での自主的な活動の充実等を通じた、地域社会への参加促進 ・いずみ会、母子保健推進員等健康づくりに関わる組織や団体との連携 ・サンサンチャレンジ協賛店や事業所、商工会等との連携 ・ヘルスアップ教室や健康講座参加者等の自主グループ活動 ・元気応援隊〈健康づくりリーダー〉の育成、活動支援			
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
元気応援塾	健康課	3回 103人	・『がん検診で早期発見、毎日の習慣でリスクを下げる』について医師の講演会を開催した。 ・『暮らしにプラスをとり入れよう』の実技を行った。 ・健康づくりの正しい知識の習得と仲間作りを支援した。	様々な機会を通して、主体的な健康づくりの活動を啓発し、元気応援隊、サンサンサポーターともに登録数は増加した。 【今後の方向性】 主体的に活動しているものが限られており、今後の活動支援方法について検討が必要である。
元気応援隊活動	健康課	元気応援 隊数 139人	・乳幼児から高齢者までの健康づくりを推進するため、健康づくりを推進するリーダー（元気応援隊）を育成し、市民主体の健康づくりの企画・実践を支援した。 ・元気応援隊活動の普及のため、パンフレットを作成し配布した。	
サンサンサポーター活動	健康課	サポーター数 103人	・自らが学んだ知識や経験を身近な人に伝え、サンサンの輪を広める啓発活動をケーブルテレビや口コミを通じて行った。	
サンサンチャレンジ協賛店	健康課	72店舗	・サンサンチャレンジを市民に啓発するとともに、参加者に独自の特典を提供する店舗を募集し、協賛していただくことでチャレンジを応援していただいた。	

第3章 栄養・運動・休養・飲酒・喫煙および口腔に関する生活習慣の改善

1. 栄養・食生活（加東市食育推進計画）

①栄養バランスのとれた食事や野菜を摂取することの大切さへの理解を深める

施策名		施策の方向性		
栄養バランスのとれた食事等に関する普及・啓発		<ul style="list-style-type: none"> ・健康で正しい食生活に関する情報提供 ・広報紙やケーブルテレビを活用した、簡単野菜レシピや適塩メニューなどの具体的で役に立つ食の情報提供 ・「食事バランスガイド」「食生活指針」「日本人の食事摂取基準」等に基づく、栄養相談・指導の実施 ・リーフレット等の配布等を通じた、市民の食育に対する意識の啓発 ・食習慣において特に課題が多い20～30歳代や男性に対する、健康や食生活に関する学習機会の提供 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
まちぐるみ総合健診時栄養指導	健康課	289人	・まちぐるみ総合健診会場で栄養士が個別相談を実施した。	【今後の方向性】 課題が多い若い世代へのアプローチが必要であり、引き続き様々な機会での啓発に努めていく。
健診結果説明会	健康課	30人	・栄養士が健診結果の説明、個別相談を実施した。	
訪問栄養指導	健康課	実施	・対象者宅へ訪問し、改善目標を立て、改善できるように支援を行った。	
加東サンサンチャレンジ食事講座	健康課	18人	・サンサンチャレンジ協賛店より講師を招き、バランスのとれた食事の重要性や食物繊維の効果について、調理実習を交えた講座を実施した。	
ケーブルテレビ料理番組かとう3分クッキング	健康課	番組数8本	・いずみ会会員が季節の食材を使った家庭料理を考案・調理した料理番組を放映した。	

②子どもや保護者が食育の重要性や知識を認識・習得し、家庭で実践する

施策名		施策の方向性		
正しい食習慣の定着への支援		<ul style="list-style-type: none"> ・保育所や学校等との連携による、保護者や子どもを対象とした望ましい生活習慣や食べ物の働きについての講座、料理教室等の食育活動の展開 ・望ましい食品の選び方、組み合わせ方の習得の推進 ・発育・発達段階に応じた、正しい食習慣に関する情報提供 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
パパママクラス【再掲】	健康課	111人	・妊娠中の食事についての講話や不足しやすい栄養素を含む食材を使用した試食を提供しました。試食はいずみ会と協力し、実施した。	【今後の方向性】 引き続き各教室・相談を通して、世代に合った指導を行い、健全な食習慣の推進を実践する。
離乳食もぐもぐ教室【再掲】	健康課	109人	・月1回、4～6か月児の保護者を対象に進め方と作り方の講話、調理実習はいずみ会と協力し、実施しました。また、個別相談を実施した。	
子育て何でも相談【再掲】	健康課	697人	・栄養、食事についての講話と個別相談を実施した。	
4か月児健診【再掲】	健康課	352人	・離乳食の必要性や進め方の講話と個別相談を実施しました。また、離乳食を始めるにあたり、だし昆布を配付し、離乳食の必要性の理解と開始の意識づけを行った。	
10か月児相談【再掲】	健康課	329人	・離乳食の進め方の講話や試食の提供、個別相談を実施した。	
1歳6か月児健診【再掲】	健康課	350人	・栄養、食事についての個別相談を実施した。	
2歳児育児教室【再掲】	健康課	359人	・講話（2歳児の食事とおやつの摂り方について）、個別相談を実施した。	
3歳児健診【再掲】	健康課	350人	・栄養、食事に対する個別相談を実施した。	
食育ぱくぱく教室	健康課	9回 680人	・保育所や幼稚園、認定こども園、児童館でいずみ会と協力し、食育教室を実施し、紙芝居、エプロンシアターなどの媒体を使用し、食の大切さを伝えた。 ・親子クッキングでは、親子で楽しみながら実習を行い、食への理解を促した。	
シニア料理教室	健康課	6回 127人	・地区公民館や保健センターでいずみ会と協力し、実施した。 ・低栄養予防、高血圧予防、和食推進などの講話と季節やテーマに応じた調理実習を行った。	

③食生活改善推進員（いずみ会）や関係機関などが連携し、活発な地域の健康づくり活動を展開する

施策名		施策の方向性			
食生活改善推進員（いずみ会）活動の充実		<ul style="list-style-type: none"> ・いずみ会活動における必要な知識の習得を目的とした、定期的な研修や情報提供 ・いずみ会活動や学校、関係団体との連携のもと、食育の日（毎月19日）や地産地消による家庭料理の普及 			
1	具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
	会員研修	健康課	7回 195人 自主活動 9回 84人	<ul style="list-style-type: none"> ・料理教室や運動、移動研修会、自主活動等を実施して情報収集や知識の習得ができた。 ・地域での活動時に必要な知識などを学習し、会員同士の交流する機会とした。 	【今後の方向性】 引き続き活動支援を実施する。
施策名		施策の方向性			
関係機関、関連事業との連携強化		<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習や学校教育等の他分野との連携を強化し、食育推進に関する事業・取組の充実の推進 			
2	具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
	加東市学校食育推進会議 加東市食育推進委員会	学校教育課	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育課、各小中学校、武庫川女子大、学校給食センター、いずみ会、JAみのり、連合PTA、社高校、健康課、農政課職員で開催した。 ・食育の状況と課題について、学校、関係機関、地域の共通理解をし、食育推進に関する情報交換を行った。 	和食コンテストのレシピ応募人数が54人であり、目標達成ができた。（H30年度重点目標：和食コンテストのレシピ応募人数20人）また、市内のスーパーにおいて、受賞レシピの試食会を実施し、多くの方へ啓発ができた。
	小学生チャレンジスクール	生涯学習課	1回 27人	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生を対象に、おやつづくり教室をいずみ会と協力して実施。手軽に自宅で作れるメニューを取り入れた。 	
	オープンスクールクッキング	学校教育課	3回 48人	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクール時に保護者対象の料理教室をいずみ会と協力して実施した。だしを使ったメニューを取り入れ、和食を通じて食への関心を高めた。 実施校：社小10、滝野東小18、滝野中20 テーマ：「和食の良さを味わおう」 ・旬の食材を使った料理 ・地産地消 	
	小学生食育教室	学校教育課	3回 139人	<ul style="list-style-type: none"> 「すがたをかえる大豆」の授業の一環で、小学3年生を対象に、自分たちで育てた豆で豆腐づくり体験をいずみ会と協力し、実施した。 実施校：滝野南小36・福田小18、滝野東小85 	
	中学生食育教室	学校教育課	1回 43人	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生を対象に、調理実習を兼ねた食育教室をいずみ会と協力し、実施した。（家庭科授業）実施校：東条中43 テーマ：「地産地消」「野菜を食べよう」 	
	社会福祉協議会、福祉施設等との連携	健康課	47回 1,572人	<ul style="list-style-type: none"> ・給食サービスボランティア、特養施設おやつづくり教室、デイサービス夏まつり、地区サロン事業等をいずみ会と協力し、実施した。 	
	生活支援サポーター 給食ボランティアの育成	社会福祉協議会	1回 10人	<ul style="list-style-type: none"> ・食に係わるボランティアの育成として、研修会を実施した。 	
	和食推進	健康課	応募数 54人 (子どもの部:17人 一般の部:37人)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統的な食文化である和食をテーマにした「わが家のおススメ和食コンテスト」を実施した。後日、市内のスーパーにおいて、応募作品を使った試食イベント(2種各300食)を実施した。 ・保育園、幼稚園、認定こども園、小中学校及び一般市民に「かとう和食の日」啓発チラシを4,500枚配布した。 	

2. 身体活動・運動

①身体活動や運動の重要性・効果について理解する

施策名		施策の方向性			
身体活動や運動に関する情報提供		<ul style="list-style-type: none"> ・「健康づくりのための身体活動基準2013」に基づく普及・啓発 ・広報紙やケーブルテレビを活用した身体活動や運動の重要性・効果等についての情報提供 ・運動をテーマとした健康教育の実施 ・ライフステージに応じた無理なく継続できる軽スポーツやストレッチ、体操等の情報提供 			
1	具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
	案らく勇躍体操、サンサンエクササイズの普及	健康課	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、ケーブルテレビで放映した。 ・パンフレットを活用し、啓発した。 	【今後の方向性】 ケーブルテレビや広報、保健事業を通じて、運動の重要性や効果についての啓発を継続する。
	+10(プラステン)啓発	健康課	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ケーブルテレビで啓発した。 	
	メール支援	健康課	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・サンサンチャレンジ登録者に情報を提供した。 	

②身体活動を増加させ、また継続した運動を実施する

施策名		施策の方向性			
日常生活における歩数の増加		<ul style="list-style-type: none"> ・生活活動を含む身体活動全体の歩数の増加を目的としたプラス2,000歩のウォーキングの積極的な推進 			
1	具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
	加東サンサンチャレンジ運動講座	健康課	33人	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅でも実践できる効果的なストレッチや筋カトレーニングを行った。 	【今後の方向性】 継続して実施していく。
施策名		施策の方向性			
運動習慣者の割合の増加		<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに応じたいつでもどこでも手軽にできるウォーキング、筋カトレーニング、ストレッチの普及 ・幼児期および小・中・高校期において身体活動の習慣化を目的とした、保育活動、学校活動、家庭教育を通じた意識啓発 ・若者や働き盛り世代に対する、職場や家庭での運動習慣の定着の啓発 			
2	具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
	サンサンカフェ	健康課	6回 66人	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の実践についての情報交換やストレッチ、筋カトレーニング、ヨガを行った。 	【今後の方向性】 ヘルスアップ教室参加者が教室終了後も継続して運動機会を設けられるよう自主活動立ち上げの支援を継続して行い、運動習慣の定着を図る。
	ヘルスアップ教室	健康課	実人数 45人 延人数 325人	<ul style="list-style-type: none"> ・10回コースで運動教室を開催した。 ・グループワークで仲間づくりを行った。 ・運動の継続化、習慣化に向けて自宅でもできるストレッチ体操を行った。 	
	ヘルスアップ教室自主教室支援教室	健康課	実人数 28人 延人数 88人	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスアップ教室コースの終了後も、地域で自主的に運動ができるように支援するための教室を5回開催した。 	

③地域の資源等を有効に活用し、地域ぐるみで運動に取り組む

施策名		施策の方向性		
運動しやすいまちづくり・環境整備		<ul style="list-style-type: none"> ・運動を継続する場の確保を目的とした、運動施設等の有効利用 ・運動の推進を目的とした、関係機関との連携強化や協働による事業・取組の推進 ・身近な公民館や集会所での運動教室の開催やウォーキングコースの紹介など、運動を促す環境づくりの支援 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
ヘルスアップ教室自主教室	健康課	6か所	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスアップ教室後の自主教室。 ・仲間づくりや運動の習慣化を目指して、教室が継続できるように支援した。 	<p>【今後の方向性】 ヘルスアップ教室終了後の自主活動が継続して実施できるよう、支援を継続していく。</p>
かとうまちかど体操教室【再掲】	高齢介護課	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域での高齢者の運動の場として、取組みを支援した。 	
ALLかとうスポーツDAY	生涯学習課	150人	<ul style="list-style-type: none"> ・体力測定を年3回開催し、血压測定、健康相談を行った。 	
ふれあいハイキング	生涯学習課	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・サンサンチャレンジの交流会として位置づけ、参加者の交流と運動についての啓発を行った。 	
加東伝の助マラソン大会	生涯学習課	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・体力づくり、健康意識の高揚を目的に県立播磨中央公園の園内コースで実施した。 	

3. 休養

①十分な睡眠やストレスと上手に付き合うことで心身の疲労の回復を図り、こころの健康を保つ

施策名		施策の方向性		
睡眠の重要性の普及・啓発		<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠についての正しい知識や睡眠不足の原因解消法等についての情報提供 ・睡眠と心身の健康の関係をはじめ、睡眠障害についての知識、睡眠の重要性などの情報提供による、疾病予防に向けた啓発 ・「健康づくりのための睡眠指針2014」に基づく、ライフステージに応じた睡眠についての普及・啓発 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
広報・ケーブルテレビ	健康課	実施	・睡眠について啓発した。	【今後の方向性】 睡眠についての啓発を継続するとともに、健診時の個別相談を継続していく。
まちぐるみ総合健診時保健指導 特定保健指導	健康課	217人	・保健師が健康アドバイスコーナーで個別相談を行った。	
地域健康サロン	健康課	8回	・睡眠やこころの健康をテーマに保健師が講話を行った。	
早寝・早起き・朝ごはん	健康課	実施	・こどもさんさんチャレンジで、早寝・早起き・朝ごはんの啓発をした。	
母子健康手帳交付時面接 乳幼児健診時指導	健康課	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠中や子育て中の睡眠不足に対する個別相談を行った。 ・子どもの生活リズムの獲得についての相談に応じた。 	

4. 飲酒

①飲酒が心身におよぼす影響を正しく理解し、適正な飲酒に努める

施策名		施策の方向性			
適正飲酒の啓発		・広報紙、ケーブルテレビ、講座等を活用した、アルコールが心身に与える影響や生活習慣病のリスクを高める飲酒量について啓発			
1	具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
	こころの健康づくりネットワーク研修	健康課	実施	・アルコール依存が、自殺のリスク因子であることを研修を通じて参加者に啓発した。	【今後の方向性】 継続して実施していく。
	こころの健康づくり研修(企業)	健康課	実施	・アルコールによるストレス解消の弊害について研修を通じ、参加者に啓発した。	
	広報紙、ケーブルテレビ	健康課	実施	・適正飲酒について啓発した。	
	まちぐるみ総合健診結果説明会	健康課	実施	・自分のアルコール体質を知るため、アルコールパッチテストを行った。	

②未成年者の飲酒による健康被害について理解し、未成年者の飲酒を防止する

施策名		施策の方向性			
未成年者の飲酒による健康被害の啓発		・児童・生徒および保護者に対する、学校活動を通じた、飲酒が健康におよぼす影響への理解の促進 ・健康福祉事務所、教育委員会等との連携強化による、市全体による未成年者に対する教育の徹底			
1	具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
	飲酒防止教育	学校教育課	実施	・小学6年、中学1年、中学3年において、アルコールによる健康被害について学習した。	【今後の方向性】 低年齢の段階から健康への影響を認識させ、誘惑に負けない行動ができるようにする。

③妊娠中の飲酒の影響について理解し、妊婦の飲酒を防止する

施策名		施策の方向性			
妊娠中の飲酒をなくす		・母子健康手帳交付時の面接等において、妊娠中の飲酒による胎児への影響を啓発、相談支援			
1	具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
	母子健康手帳・父子健康手帳交付時保健指導	健康課	実施	・妊娠中の飲酒による胎児アルコール症候群についての説明や、飲酒の状況を確認した。	【今後の方向性】 継続して実施していく。

④アルコール関連問題について適切な相談支援を受けることができる

施策名		施策の方向性			
アルコール関連問題に対する早期発見と早期介入		・健康診査、保健指導等での、アルコール問題の早期発見と相談支援 ・保健センターでの、アルコールに対する随時相談支援 ・企業等との連携による職域でのアルコール問題への啓発 ・健康福祉事務所など専門相談機関との連携による多量飲酒者への相談支援とかかりつけ医への受診促進			
1	具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
	まちぐるみ総合健診時保健指導 特定保健指導	健康課	実施	・多量飲酒者に対して個別相談を行った。	【今後の方向性】 健診機会等を生かした、個別対応に努める。
	こころの健康づくり相談窓口 チラシの作成配布	健康課	実施	・アルコール関連の相談窓口を掲載したチラシを作成し、配布した。	

5. 喫煙

①喫煙のおよぼす悪影響について理解し、多くの疾患のリスクの低減を図る

施策名		施策の方向性		
喫煙率の低下		<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙が心身に与える影響への啓発を目的とした、広報紙やケーブルテレビを活用した情報提供 ・禁煙希望者への具体的な禁煙相談支援 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
広報紙、ケーブルテレビ	健康課	実施	・禁煙のメリット、禁煙週間について啓発した。	【今後の方向性】 今後も肺年齢測定を継続して実施し、COPDの啓発に努める。 禁煙希望者の相談対応を継続して実施する。
まちぐるみ総合健診時保健指導	健康課	51人	・まちぐるみ総合健診時に、禁煙希望者に一酸化炭素濃度測定を行い、保健師が個別の相談に応じた。	
禁煙週間	健康課	相談数 36人	・禁煙週間を設定し、保健師が個別の相談に応じた。	
COPD啓発・肺年齢測定	健康課	133人	・健康展・結果説明会(社会場)において肺年齢測定を行い、COPDの啓発を行った。	
特定保健指導	保険医療課	実施	・喫煙者の禁煙意思を確認し、電話支援、訪問支援により相談支援を行った。	

②未成年者の喫煙による健康被害について理解し、喫煙を防止する

施策名		施策の方向性		
未成年者の喫煙による健康被害の啓発		<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒および保護者に対する、学校活動を通じた、喫煙が健康におよぼす影響についての理解促進 ・家庭・地域・学校・医療機関との連携の強化による、未成年者の喫煙防止 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
社高校出張講義	健康課	37人	・看護医療類型出張講義において、受動喫煙や喫煙の害について高校生に伝えた。	【今後の方向性】 ・低年齢の段階から健康への影響を認識させ、誘惑に負けない態度を培うようにする。
喫煙防止教育	学校教育課	実施	・小学5年、中学1年、中学3年において、受動喫煙、喫煙による健康被害について学習した。	

③妊娠中の喫煙の影響について理解し、妊婦が喫煙の影響を受けないように配慮する

施策名		施策の方向性		
妊娠中の喫煙をなくす		<ul style="list-style-type: none"> ・母子健康手帳交付時における、妊娠中の喫煙、受動喫煙の影響についての啓発、相談支援 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
母子健康手帳・父子健康手帳の交付時保健指導	健康課	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙の有無と受動喫煙の機会の有無を把握し、必要な情報提供や禁煙指導を行った。 ・喫煙を継続している妊婦については、妊娠・出産・子育て安心パートナーが、電話でのモニタリングを行い、禁煙支援をした。 	【今後の方向性】 継続して実施する。

④子育て世代における喫煙が子どもにおよぼす影響を理解し、禁煙、分煙する

施策名		施策の方向性			
子どもへの喫煙による影響をなくす		<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙、ケーブルテレビ、各母子保健事業等を通じて、家族の喫煙が子どもにおよぼす影響について啓発 ・PTA、保護者会等、子育て関係団体への啓発 ・禁煙に向けての相談機会の充実 			
1	具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
	まちぐるみ総合健診時保健指導	健康課	実施	・健診時等の禁煙指導を実施する際には、副流煙の害などについて詳しく説明した。	【今後の方向性】 健診、教室に合わせた啓発を継続する。
	各乳幼児健診、教室	健康課	実施		

⑤受動喫煙のおよぼす影響、対策について正しく理解する

施策名		施策の方向性			
受動喫煙のないまちづくり		<ul style="list-style-type: none"> ・公民館、図書館等公共の場における禁煙・分煙対策の推進 ・受動喫煙の防止等に関する条例(兵庫県)の啓発 			
1	具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
	各乳幼児健診、教室	健康課	実施	・受動喫煙のないまちづくりのチラシを配布した。	【今後の方向性】 健康増進法の一部改正、県受動喫煙防止条例の改正を踏まえ、啓発に努める。

6. 歯・口腔

①歯・口腔の健康に対する正しい知識を持ち、歯周病等の歯科疾患を予防する

施策名		施策の方向性		
歯・口腔に関する正しい知識の普及・啓発		<ul style="list-style-type: none"> ・歯科疾患の予防や口腔管理の方法、かかりつけ歯科医を持つことの重要性など、あらゆる機会を通じた歯・口腔の健康に関する知識の普及・啓発 ・歯周疾患検診の受診促進 ・個人の状況に応じた食生活の改善 ・正しい歯磨きの方法、歯間部清掃器具の使用等の啓発 ・「8020運動」に加え、40歳で喪失歯のない市民の増加の推進 ・「かみかみ百歳体操」など地域のグループ活動に対する支援 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
広報紙・ケーブルテレビ	健康課	実施	・「歯と口の健康週間」、「歯の健康づくり」、を啓発した。	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な世代に啓発を行うことができた。 ・妊婦歯科健診を実施することで、妊娠期から子どもや家族の口腔ケアの必要性について啓発をすることができた。 <p>【今後の方向性】 フレイル予防としてのオーラルケアに取り組む。</p>
健康展	健康課	48人	・唾液でむし歯危険度チェック(RDテスト)を行った。	
母子健康手帳・父子健康手帳交付、面接	健康課	実施	・妊娠期の歯科保健、かかりつけ歯科医の必要性について保健師が個別指導を行った。	
妊婦歯科健診	健康課	40人	・歯周疾患が起こりやすい妊娠中に歯周病検診を実施した。 ・パパママクラスと併せて開催することで、妊婦が受診しやすい体制を整備した。	
かみかみ百歳体操	高齢介護課	27会場	・かとうまちかど体操教室で、参加者がかみかみ百歳体操(口腔体操)を行った。	
歯つらつ講座	高齢介護課	5回 142人	・歯科衛生士、保健師とかみかみ百歳体操のポイントや噛む力や口腔ケア等について講話を行った。	

②学校・職場・地域・医療機関等で、ライフステージに応じた歯科保健サービスを受けることができる

施策名		施策の方向性		
乳幼児・学齢期のう蝕のない者の増加		・正しい歯磨きの指導やむし歯の早期治療等の重要性の周知		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
4か月児健診	健康課	352人	・生活リズムや離乳食、歯の清潔等について問診し、母自身が歯の健康について、関心や知識が持てるように指導を行った。	
10か月児相談	健康課	329人		
1歳6か月児歯科健康診査	健康課	349人 *有病率 0%	・歯科健康診査として、歯と口腔の健康チェックや生活習慣なども含めた歯科保健指導を実施した。	
2歳児育児教室	健康課	359人	・むし歯になりやすいこの時期に、食事やおやつのととり方や歯科衛生士によるブラッシング指導を行った。	

1	3歳児歯科健康診査	健康課	348人 *有病率 6.3%	・歯科健康診査として、歯・口腔の健康チェックや生活習慣なども含めた歯科保健指導を実施した。	<ul style="list-style-type: none"> ・健診における歯科有病率は低下している。 ・引き続き、健診や教室の機会を利用して、保護者の意識啓発と正しい知識の普及に取り組む。 ・小中学校歯科健診については、給食後の歯磨き週間の設定や保健だよりの発行を通して、歯の健康についての意識向上を図る。
	子育て何でも相談	健康課	89人	・歯科衛生士による口腔衛生指導を年2回実施し、個別の相談に応じたことで、育児の様々な悩みが軽減した。	
	歯科相談 (子どものむし歯チェック)	健康課	21人	・まちぐるみ総合健診時、子どものむし歯チェックの機会として、歯科健診を実施した。	
	保育所・認定こども園歯科健診	こども教育課	5歳児 287人	・保育所・認定こども園において、歯、口腔の疾病及び異常の発見として、歯科健診を実施した。	
	幼稚園歯科健診	こども教育課	29人	・幼稚園において、歯、口腔の疾病及び異常の発見として歯科健診を実施した。	
	小・中学校歯科健診	学校教育課	小学生 1,876人 中学生908 人	・小中学校において、歯、口腔の疾病及び異常の発見として歯科健診を実施した。	
施策名		施策の方向性			
歯科健診の受診促進		・定期的な歯科健診の受診による、歯・口腔の疾患の早期発見・早期治療の促進			
具体的事業名		担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
歯周病検診		健康課	512人 (内妊婦14 人)	・まちぐるみ総合健診と併せて、歯周ポケットの測定等歯周病検診を512人に実施し、要精密検査の方265人(51.8%)に歯科医院の受診を勧めた。 ・要精密判定の方の受診結果を把握した。(47.9% 受診済みの回答あり) ・歯科健診の受診の必要性を啓発した。	<ul style="list-style-type: none"> 【今後の方向性】 ・様々な機会を生かしてかかりつけ歯科医を持つことや、定期的な歯科健診の受診について啓発を継続していく。
広報紙・ケーブルテレビ		健康課	実施		
母子健康手帳・父子健康手帳交付、面接		健康課	255人	・妊娠期の歯科保健、かかりつけ歯科医の必要性について、保健師が個別指導を行った。	
施策名		施策の方向性			
歯科保健体制の整備		<ul style="list-style-type: none"> ・個人による歯・口腔の健康づくりおよび地域、職場、学校、医療機関等を含めた社会全体による個人の取組への支援 ・健康福祉事務所、歯科医師会などの関係機関が開催する会議・連絡会を通じた、歯科保健対策の推進 ・歯科衛生士会活動との連携 			
具体的事業名		担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
歯科保健連絡会		健康課	8月	・小野加東歯科医師会と庁内関係課による連絡会を開催した。 ・情報交換を行い、課題や今後の方向性について検討した。	<ul style="list-style-type: none"> 会議において、保健事業についての協議、調整を行うことができた。 【今後の方向性】 今後も継続して実施していく。
歯科保健事業連絡会		健康課	2月	歯科衛生士会と連絡会を開催し、歯科保健事業実施における課題や今後の方向性について検討した。	
年末年始歯科診療		健康課	33人	・小野加東歯科医師会により年末年始休日診療が行われた。	

第4章 健康危機における健康確保対策

①ふだんから感染症予防について理解を深め、発生の動向を把握し、予防行動をとる

施策名		施策の方向性		
感染症に関する知識の普及・啓発		<ul style="list-style-type: none"> ・市民自らが感染症について学ぶことができる機会の提供など、市民の健康危機管理に対する意識向上 ・市民の自主的な感染症対策の実践を目的とした、医療機関・施設・学校関係機関や市民に対する感染症予防についての普及・啓発 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
広報紙・ケーブルテレビ・個別通知	健康課	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・予防接種法に基づく定期予防接種の接種勧奨を、広報等で実施した。 ・日本脳炎、二種混合、麻しん風しん混合の未接種者及び高齢者肺炎球菌予防接種対象者に、個別通知を行った。 	【今後の方向性】 継続して実施する。
地域健康サロン	健康課	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防についてチラシ配布等を行った。 	
母子保健事業での健康教育	健康課	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防、予防接種について周知した。 	

②関係機関が感染症や災害の発生時に、相互に連携して適切な初動対応を行う

施策名		施策の方向性		
感染症や災害時等の連携体制の構築		<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の発生や流行時に必要な情報を収集することを目的とした、平時からの国・県や周辺自治体との情報共有 ・市内の医療機関、消防機関、教育機関等との連携体制の構築による、感染症の発生動向やまん延防止策等の情報発信 ・災害時や感染まん延時等の危機管理における、市防災計画、新型インフルエンザ等対策行動計画、災害時保健活動ガイドライン等の整備およびそれらの計画に基づく対策 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
新型インフルエンザ等特定接種の登録	健康課	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・新型インフルエンザ等対策の実施に携わる公務員の人数及び接種実施医療機関名を厚生労働省の「特定接種管理システム」に登録した。 	【今後の方向性】 継続して実施する。 避難所体験訓練については、実施内容等の検討・調整しながら継続して実施する。
兵庫県広域災害・救急医療システム運用訓練	健康課	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・県広域災害・救急医療情報システムに登録した。 ・北播磨圏域災害時情報伝達訓練に参加した。 	
避難所体験訓練	防災課	7組 20人	<ul style="list-style-type: none"> ・スカイピア(指定避難所)において、負傷時等の応急処置、災害時の協定に基づくダンボールベッドの供給や給水車での給水体験など関係機関と連携し訓練を実施した。 	
地域医療連絡会	健康課	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・小野市・加東市医師会と連携について協議した。 	
感染症相談窓口の設置	健康課	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・予防接種や感染症についての相談や問い合わせに応じた。 	

③早期に必要な感染症の検査や健康診断、保健指導を受けることができる

施策名		施策の方向性		
感染症に対する相談体制に充実		<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の相談窓口や定期健康診断の受診啓発 ・感染症についての個別保健指導の実施 ・要介護者や障害者等支援を必要とする感染症患者に対する相談体制の充実および必要な生活支援のコーディネート 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
予防接種に関するチラシ配布	健康課	実施	・母子健康手帳交付時に、予防接種チェック表を配付した。	【今後の方向性】 継続して実施する。
母子保健事業での個別指導	健康課	実施	・乳幼児健診で個別の相談に対応した。	
定期予防接種の実施	健康課	P28 参照	・予防接種法に基づくワクチンを、法定上で規定する対象者、回数等を個別接種で実施した。	
行政措置による予防接種	健康課	P29 参照	・おたふくかぜを1人1回分全額助成した。	
任意予防接種の助成	健康課		・風しん(麻しん風しん混合)及び23価肺炎球菌ワクチンを助成しました。 ・特定の条件を満たした方に対して、払い戻し(償還払い)手続きでの助成を実施した。	

④市民が予防接種の方法について正しく理解し、適切に予防接種を受けることができる

施策名		施策の方向性		
予防接種率の向上		<ul style="list-style-type: none"> ・医師会や関係機関との連携、調整による円滑な予防接種体制の確保 ・妊産婦や乳幼児を持つ家庭、高齢者等に対する予防接種の普及・啓発 ・教育委員会、保育所等との連携による定期予防接種率の向上 		
具体的事業名	担当課	H30実績	具体的な取組内容	課題、今後の方向性等
予防接種に関するチラシ配布	健康課	実施	・母子健康手帳交付時に、予防接種チェック表を配付した。	【今後の方向性】 継続して実施する。
母子保健事業での個別指導	健康課	実施	・乳幼児健診で個別の相談に対応した。	
定期予防接種の実施	健康課	P28 参照	・予防接種法に基づくワクチンを、法定上で規定する対象者、回数等を個別接種で実施した。	
行政措置による予防接種	健康課	P29 参照	・おたふくかぜを1人1回分全額助成した。	
任意予防接種の助成	健康課		・風しん(麻しん風しん混合)及び23価肺炎球菌ワクチンを助成した。 ・特定の条件を満たした方に対して、払い戻し(償還払い)手続きでの助成を実施した。	

予防接種の実施状況

◆ 子どもの定期予防接種一覧

予防接種名	接種回数	実績（単位：人、接種率％）		対象者
		30年度		
ヒブ（初回免疫、追加免疫）	4	1,394人	100.4%	生後2～60か月に至るまで
小児用肺炎球菌（初回免疫、追加免疫）	4	1,405人	101.2%	生後2～60か月に至るまで
B型肝炎	3	1,034人	98.5%	平成30年4月1日以降に出生した方で、生後1歳に到るまで
四種混合、二種混合（1期初回、1期追加）	4	1,421人	102.4%	生後3～90か月に至るまで
不活化ポリオ（初回、追加）	4	2人	-	生後3～90か月に至るまで
BCG	1	340人	97.1%	生後1歳に至るまで
麻しん風しん混合（1期）	1	353人	104.4%	生後12～24か月に至るまで
麻しん風しん混合（2期）	1	350人	96.7%	小学校就学前までの1年間（年長に相当する児）
水痘	2	699人	103.4%	生後12～36か月に至るまで
日本脳炎（1期）	3	1,209人	120.1%	生後6～90か月に至るまで
日本脳炎（2期）	1	311人	85.7%	9歳以上13歳未満
日本脳炎（特例対象者）	延4	310人	87.6%	（※1）
二種混合（2期）	1	255人	73.1%	11歳以上13歳未満
子宮頸がん予防	3	2人	-	中学1年生～高校1年生に相当する女子

（※1）日本脳炎予防接種の特例対象者について

特例① 平成7年4月2日から平成19年4月1日生まれの方

→20歳になるまでの期間で、最大4回接種可（1期及び2期の未接種分）

特例② 平成19年4月2日から平成21年10月1日生まれの方

→日本脳炎1期及び2期の接種期間で、最大4回接種可（1期の未接種分を2期に接種可）

◆ 高齢者の定期予防接種一覧

予防接種名	接種回数	実績（単位：人、接種率％）		対象者
		30年度		
高齢者インフルエンザ	1	6,691人	63.0%	65歳以上の方（※2）
高齢者肺炎球菌	1	1,269人	50.4%	65歳から100歳までの5歳刻みの年齢の方（※2）

（※2）高齢者インフルエンザ及び肺炎球菌の対象者について

→上記以外の対象者で、60歳以上65歳未満の方で、心臓、じん臓又は呼吸器の機能に自己の身の日常生活活動が極度に制限される程度の障害をお持ちの方、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害をお持ちの方（障害者手帳1級相当をお持ちの方）

◆ 行政措置予防接種一覧

予防接種名	接種回数	実績（単位：人）	対象者
		30年度	
おたふくかぜ	1	411人	生後12か月～小学校就学前まで

◆ 任意予防接種費助成一覧

予防接種名	接種回数	実績（単位：人）	対象者
		30年度	
風しん（麻しん風しん混合）	1	150人	①平成2年4月1日以前生まれ ②抗体検査の結果の数値が低い方
23価肺炎球菌	1	1人	内部障がいに係る身体障害者手帳を有する方

● 接種勧奨方法

区 分	勧奨方法
子どもの定期予防接種	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出生時に予診票つづり、接種方法等の説明書配付 ・ 新生児訪問で勧奨 ・ 健診案内時に勧奨チラシ送付 ・ 広報紙、ホームページ等を通じ啓発 ・ 保育園、認定こども園及び幼稚園にポスター掲示 ・ 個別通知
高齢者の定期予防接種	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関にポスター掲示 ・ 広報紙、ホームページ及びケーブルテレビ等を通じ啓発 ・ 高齢者肺炎球菌の個別通知
行政措置予防接種	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報紙、ホームページを通じ啓発 ・ 勧奨チラシの配布
任意予防接種費助成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報紙、ホームページを通じ啓発 ・ 勧奨チラシの配布 ・ 身体障害者手帳交付時に23価肺炎球菌の対象者に勧奨チラシを配付

令和元年度事業の推進について

市民の予防接種に対する関心を高め、予防接種率の向上を図るとともに、感染症の予防対策をはじめ、感染症に関する知識の普及、啓発を推進します。